

## 会長の挨拶 22 職業の本質—その 9—

ここでは、ロータリーの専門技術的な職業分類を論じようとするものではない。それよりも、ロータリーが前提として考えている職業の理論的実体が時代の要請に従って流動するものであり、その中で支柱となる考え方はある程度の持続力を持ちながらも、そのいずれについても永遠不変のものではなく、その中間形態の存在も含めて、かなり流動性を持っている事実を明らかにし、この流動的な職業に対してロータリーは一体どのような角度から物事を考えようとしているかを考察してみたいと思ったまでのことである。

先ず第一に、ロータリーは人間社会活動が一定の管理機構をもって多角的な形で営まれている点に注目する。管理機構をもってということは、頭脳を働かせてという意味である。優秀な頭脳を働かせて、多少なりとも自己の自由な判断で、何等かの企業組織に積極的な役割を果たす人の頭脳的エネルギーをロータリーは、そのクラブ組織の単位と考えている。これが第二点、そして第三点として特定の地域社会に存在する管理者を一つの職種から各一名クラブのアクティブ・メンバーと成ってもらい、それらの優秀な頭脳的エネルギーが例会で交換されることを期待しているという要素をあげることができる。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)